

国

語

(
解答
番号

1

}

55

(

I 次の文章を読んで、あとの問い(問1～問12)に答えなさい。解答番号は

1

35

。《配点65》

二〇一〇年代半ば以降、「Netflix」をはじめとする定額制動画配信サービスが日本に上陸し、また在京民放による見逃し配信サービスである「TVer」が生まれ、その他にもさまざまな経路で映像コンテンツを視聴できるようになった。あるアニメやドラマが人気をえて社会現象となった場合、人々はこうした経路を通じて「遅れて」視聴を始め、ブームに参入することも容易である。映画の場合、同じ作品が近隣の映画館で上映されている限り、その評判を判断してから公開初日よりだいぶ「遅れて」観賞するということが以前からできたが、同様の視聴行動をテレビアニメやドラマのようなシリーズもののコンテンツに対しても取れるようになっていたのが、現在のメディア環境の特徴である。

だがここで「現在の」と限定しているように、こうしたメディア受容のあり方は歴史的にみれば新しいものである。テレビを中心として展開されてきたシリーズものの映像コンテンツは、放送時間にはテレビの前に座っていなければならなかったり、放映を見逃すと再放送まで待たなければならなかったりと、以前はもっと時間的な制約に基づいて経験されてきた。本稿で考えてみたいのは、こうした時間的制約のもとで、ブームといえるような現象がさまざまな不自由さのなかでどのように受容されていたのか、そして受容者がその状況下でいかなる実践を行っていたのかという点である。ここでは一九七九年から一九八〇年にかけて放送された『機動戦士ガンダム』^(注1)を主たる事例にする。

『ガンダム』は、一九七四年に放映された『宇宙戦艦ヤマト』とともに、その内容の複雑さやメッセージ性も《1》《青年層のアニメファンを熱狂させ、いわゆる第二次アニメブームを生じさせるきっかけとなった番組だとされる。だが当時はまだまだアニメは子ども向けの認識が強く、番組編成のなかに》2 《位置を占めていたわけではなかった。したがって「ブーム」という《3》《熱狂を想起させる時期であるにもかかわらず、『ガンダム』をめぐる視聴機会は地域によって異なり、実態としては居住地域に応じて「視聴できる人／視聴できない人」という区分けを生み出していた。その意味で『ガンダム』は、アニメブームにおいてファン集団を統合するだけでなく、分節化する契機ともなったのである。》

アニメブームと呼ばれる時期は、同じ番組であったとしても地域ごとに放送時期、放送時間帯、放送順序、再放送機会が異なり、多様な時間性が織り上げられていた。以下では具体的に『ガンダム』をめぐるどのような放送の時空間が編成されたのかをみていこう。

『ガンダム』は、製作局である名古屋テレビでは一九七九年四月七日から一九八〇年一月二六日にかけて毎週土曜日一七時三〇分から全四三話、休みなく放送された。しかし、この放送期間は全国のテレビ局で採用されたわけではなかった。たとえば一九七九年四月から『ガンダム』の放映を開始したのは一〇局だった。関東・中京・近畿広域圏を受け持つテレビ朝日・名古屋テレビ放送網・朝日放送テレビで一六都府県をカバーするものの、それをあわせても、全都道府県のうち約半数の二三地域程度でしか『ガンダム』は視聴できなかつたと考えられる。一九七九年のうちに遅れて放送を開始する局は八つあったが、開始時期はまちまちで、五月からはじめる局もあれば年末にかけて編成に組み込む局もあった。このように「いつから」放送が始まるかは地域によって異なり、時期には多様性があつた。

また、一九七九年のうちに放送を開始した局で、一九八〇年の二月一日以降にも『ガンダム』の放送を続けていた局は一〇局あつた。五月以降に遅れて放送を開始した局のうち、青森放送は年内に放送を打ち切り、名古屋テレビとほとんど変わらないタイミングで放送を開始した三局が放映期間を延ばしている。この背景には、年間を通じたテレビ編成のリズムが関係しているだろう。

そして、一週間や一日のうちで「いつ」放送されるかにも地域差があつた。一九七九年に放送を始めた局で、金曜と土曜に放映していたのはそれぞれ六局で、他には水曜日の三局、月曜・火曜・日曜に一局ずつだった。放映時間は一七時三〇分、一七時〇〇分スタートが最も多く、青森放送の土曜六時〇〇分、宮崎放送の日曜一五時〇〇分開始を除いたすべての局が一六時〇〇分以降の放送となった。何曜日の何時から放送されるかというのは、時間帯と視聴慣習の観点からすると重要な問題である。テレビは時間帯に応じて、いわゆる「主婦」向け、「子ども」向け、「仕事帰りの男性」向けというように放映番組を変え、視聴率を最大化しようとする。時間帯に沿って、テレビの前に居座る主体が切り替わっていくわけだが、同じ時間帯でも曜日によって対応する

ジャンルは異なりうる。たとえばある時期以降、日曜朝の時間帯はスーパー戦隊もの、変身ヒーローもの、魔法少女ものといった特定のジャンルと結びついた形で編成され、放映中のシリーズが終わった後も、継続して同ジャンルの新番組が始まることを視聴者は予期している。^A

ここまで論じてきた内容を、「放送の中心／周縁」という観点から捉えることもできるだろう。その上で重要なのは、この中心／周縁関係は実際の地理関係に必ずしも対応していない点だ。たとえば『ガンダム』は、青森県をカバーする青森放送と宮城県をカバーする東日本放送、山形県をカバーする山形テレビでいち早く放映がはじまったものの、隣接する岩手県、秋田県、福島県では一九七九年のうちには始まらなかった。つまり、隣接する県で放映が始まっていたとしても、エアポケットのように放送がされない地域が生まれうるのである。

また、都市部と他の地域の放送格差に関しても《4》『複雑さがある。たしかに、東京、名古屋、大阪を《5》『広域圏では、自らが製作局になるケースも多いということもあり、多様な番組が放送される。しかしかりに本放送が早く始まったとしても、「再放送」となると都市部だからといって多くなるわけではない。たとえば名古屋テレビでは一九八〇年三月から『ガンダム』の再放送がはじまり、中京広域圏の人々は『ガンダム』放映終了後から間を置かず再び視聴機会を得ることができた。だが、関東広域圏をカバーするテレビ朝日や近畿広域圏をカバーする朝日放送で再放送が行われるのは一九八一年以降である。つまり東京や大阪といった大都市圏の人々は、「甲 」。対して福岡を主エリアとする九州朝日放送は、一九七九年四月から『ガンダム』を放映しただけでなく、一九八〇年には二度、再放送を行っている。おそらく福岡県の人々が、当時は最も『ガンダム』の視聴機会が豊かだった。

このように『ガンダム』をめぐる放送の時空間は全国どこでも画一的なものではなく、複雑な地形をなしていた。さらに興味深いのは、『ガンダム』に接する時間的文脈が地域によって異なりえただけでなく、そうした差異の認識を通じて、特に放送の周縁に置かれた人々が時間性に対する独特な意味づけを行っていた点だ。^B

多くの論者が指摘するように、アニメブーム期は『OUT』（一九七七年創刊）、『アニメージュ』（一九七八年創刊）、『MANIFIC』

(一九七八年創刊)、『ジ・アニメ』(一九七九年創刊)といったアニメ雑誌の創刊ラッシュを伴い、それら雑誌メディアを中心として多様なコミュニケーションが展開された。これらの雑誌は地域ごとの機会格差を浮かび上がらせることで、周縁のアニメファンにアニメブームの時間性を意味づける三つの契機をもたらしたと考えられる。

①まずアニメ雑誌は、テレビ放送とは異なり、全国にほとんど同じタイミングでハンパ^a・販売されることで、アニメ番組の情報をその放送がまだ始まっていない地域にも伝達する。その結果、放送の周縁に位置づけられた人々は自身の地域では見ることができない番組が他の地域では視聴されていることを理解し、ときに否定的な意味づけを行った。

地方ではまだ放送されていなかったり、時間のつごう上見られなかったりするアニメがたくさんあるんだなあ、としみじみ思いました。アニメを誌上でしか知ることができないというのは、あまりにも悲しいんじゃないですか。どうにかできないのでしょうか。

アニメ放送とアニメ雑誌が⑥ ⑦した形で受容される地域では、このような感覚は抱かれな^いし、アニメ雑誌がなければ「視聴できない番組」に関する情報が広く⑧ ⑨することもなく、機会格差への意識も明確な⑩ ⑪を結ばないだろう。その意味で引用にあるような感情の表出は、「アニメ雑誌ブーム」以降に⑫ ⑬となるものである。

②また機会格差のあり方は、アニメ雑誌の投稿欄によっても理解可能になる。社会学者の山口誠はベネディクト・アンダーソンの議論を⑭ ⑮しながら、ラジオ放送が⑯ ⑰する社会的時間としての同時性は、ただ同時に聴取する人々がいるだけでなく、たとえば「誰かが新聞を読む姿を小説で読むという」「二重の読み」のように、そうした聴取者の存在が別のメディアで提示・可視化されることで強固なものとして構築されるという。事後的に放送の瞬間に⑱ ⑲し、他者とその経験を共有することで、「あの時」として振り返ることができる記憶の形式」が生み出されるのである。アニメ雑誌の投稿欄は、番組に関する感想を言い合う場となることで、その番組を視聴できた人々のあいだに「あの時」としての同時性の感覚を育む。

たとえば『ガンダム』放映終了後に『ジ・アニメ』誌上で、最終回が終わった『ガンダム』への感想を八編集めた「MY GUNDAM」^(注3)と題されたページが設けられた。その趣旨には以下のようにある。

【 I 】

他方で放送の周縁に置かれた人々は、社会的時間としての同時性からは排除されるため、こうした投稿を読むと時差に対する意識が強くなるだろう。いくら『ガンダム』を見たいと思っても、放送スケジュールを自分ではどうすることもできない。その状況で視聴できない番組について熱狂的に語る人々を目にした場合、機会格差を痛感せざるを得ないからだ。アニメ雑誌の投稿欄は、同時性と時差という二つの時間性をもたらすのである。

③『アニメージュ』や『ジ・アニメ』、『アニメディア』といった雑誌には全国各地の放送局で放映されている番組のリストが毎号掲載されていたが、このメディア形式も機会格差を可視化する。たとえばリストは、自身の地域で視聴できる番組を検索・参照するのに役立つが、それと同時に、他の地域で放送されている番組の総数と自身の地域での総数とを比較可能にする。特に放送局が少ない地域の視聴者・読者は、自身の視聴可能性が限定されていることが一目**リョウゼン**^bとなり、その**タカ**^cに応じて居住地域を意味づけする契機となる。

【 II 】

このようにアニメ雑誌は、放送の中心に位置づけられる人々には同時性の感覚を、その周縁にいる人々には時差への意識をもたらす。そして周縁に置かれた人々は、遅れて自身の地域でアニメが放映される際に独特な言説実践を行った。たとえば長崎で『ガンダム』がほぼ一年遅れで放映されることになり、当地のファンは以下の投稿を『アニメージュ』に寄せている。

長崎県にもいよいよ『ガンダム』上陸！ こちらでは二月一九日から放映。みなさんが『ガンダム』が終わっちゃった、悲しいよオー」といったところ、わたしたちは「もうすぐ『ガンダム』がはじまる」と喜んでいました。

『ガンダム』の放映が終わった際、多くのファンが番組との別れを惜しんだ。そうした状況を踏まえ、「他の地域ではもう見られなくなった番組を、この地域ではいま見ることができるといって、本来は避けられるべき放送の遅れを転覆的な仕方では意図しているのである。

さらにこうした意味づけの背景には、人気番組に共通する要因があるといえるだろう。『ガンダム』は放映当初は人気がなかったものの、徐々に視聴率を高めていった。それと並行して、当時のアニメ雑誌でも継続的に特集が組まれていくようになった。つまり最初は視聴していなかったが、「乙」。そのため放送の中心に含まれていた人々の間でも、『ガンダム』を最初から見た人と遅れて見始めた人とで視聴機会の差が生じる。以下の投稿はこのことをよく示している。

【 Ⅲ 】

他方で、放送の周縁に置かれた人々はアニメ雑誌を介して、放送前に『ガンダム』を「見るべき番組」として位置づけることができる。そのため遅れて放送される地域では何としてでも視聴するために、見たいものが裏番組にあっても諦め、生活上のシヨウヘキを乗り越えるというように、さまざまな準備を整えられる（それでも視聴できないケースはもちろんある）。その意味で放送の遅れは、それまでの中心／周縁関係を反転させる余地を内側に含みこんでいるのである。

たとえば『アニメージュ』は、再放送のためには「署名は何名分くらい集まればよいのでしょうか？」という問いかけと、それに対する編集部からの「こうすればかならず再放送される、何名の署名が集まればかならず再放送される、という基準は、残念ながら編集部でもわかりません」という応答が掲載され、続けて「全国の『ガンダムFC』などでも再放送を望む署名運動が起こっているようです」と報告されている。

そして次号の『アニメージュ』には、「このようなファンの強い要望にこたえて」名古屋テレビと九州朝日放送がいち早く再放送を決めたことが報告され、両局の担当者からのコメントも引用されている。コメントには「ファンの要望にはこたえなくてはなりませんから」(名古屋テレビ)、「ファンの圧倒的な要望で再放送を決定しました」(九州朝日放送)とあり、ファンの運動が再放送を決める要因であったことがうかがえる。しかも九州朝日放送にいたっては、「ファンには中学高学年から高校生が多いので、放映時間帯も本来なら五時からすべきものを、五時半からとあえてずらしました」とあるように、本放映では一七時からだった時間帯を三〇分遅らせて再放送を行っている。当時のアニメ放送の時間帯が持つ意味合いを理解しているからこそその対応であろう。また署名や投書といった活動は再放送だけでなく、放送の周縁に置かれた人々が本放送を求める手段でもあった。

従来、メディアとしての放送の役割は、《13》をこえて多くの人々に同時に同一の情報をもたらす点から説明されてきた。たとえばラジオやテレビの放送は、同じコンテンツを国内に流通させ《14》の感覚を人々にもたらすことで「想像の共同体」を作り上げる《15》となる、というようにである。しかし本稿で『ガンダム』を事例にみてきたように、テレビ放送にもさまざまな時差が組み込まれており、遅れをとめないながら番組は視聴されていた。そしてその遅れに基づきながら人々は自他を意味づけし、アニメファンというまとまりを《16》していった。アニメ放送はたしかに「想像の共同体」を形作る側面があったが、その「共同体」は日本全体をホウセツする^eようなものではなく、放送の《17》に応じて現実の環境をまたぎながら《18》が引き直されていった。映像流通のあり方が人々を時間的に差異化して、《19》する様相を、アニメブームに限らず考えていく必要があるだろう。

他方でアニメファンは、こうした放送の時間性をまずは受け止めつつも、集団として声をあげることによって番組編成を組み替えて

いこうとした。その際に活用されたのがアニメ雑誌の投稿欄だった。投稿欄上で署名活動への呼びかけが行われ、他の地域の活動が掲載されることで、運動は拡散していった。アニメ雑誌は放送の時差を可視化してファン集団を分節化すると同時に、アニメファンが自分以外にも多くいることを実感させることでファン集団を連帯させていったといえよう。

こうしたファン実践は、一見すると「能動的」な行為のように思える。だが同時に、ファンの活動自体を送り手側が前提にしていたともいえる。たとえば『宇宙戦艦ヤマト』が映画化される際、プロデューサーの西崎義展よしのぶはファンクラブに対して「ポスター作戦」と「リクエスト作戦」という宣伝活動を依頼したという。ポスター作戦は目立つところにポスターを貼ってもらうもので、リクエスト作戦は「ラジオ・テレビのリクエスト番組や、ヤング向けの雑誌にハガキを出し、ヤマトの歌をかけさせ、ヤマトの事を取り上げてもらおう」というものだった。ファン実践を方向付けることで製作者の利益を最大化しようとしているわけだが、このようにファンの能動性は容易に送り手側の戦略に組み込まれうる。

『ガンダム』ブームにおいてこうした依頼があったかどうかはともかく、ファンクラブのインタビューに積極的に応じている点からも、監督の富野由悠季よしゆき自身はファンを組織化することの有効性に自覚的であったと思われる。

(近藤和都『機動戦士ガンダム』と(再)放送の文化史)より)

(注1) 『機動戦士ガンダム』……日本サンライズ製作によるアニメーション。人間が乗り込んで操縦するロボットによる戦争を描くが、リアルな人間描写などが人気となり大ヒットを記録した。

(注2) ベネディクト・アンダーソン……アメリカの政治学者(一九三六～二〇一五)。著書に『想像の共同体』などがある。

(注3) 「MY GUNDUM」……正しくはGUNDAMだが、雑誌に掲載されたとおりに表記している。

問1

《 》 1～5に入る言葉として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、1 2 3 4 5 。

- | | | | | | |
|---|-----------------------|-------------------------|-----------------------|----------------------|----------------------|
| 1 | ① 相ま ^つ て | ② 煮詰 ^ま って | ③ 感極 ^ま って | ④ 勢い余 ^つ て | ⑤ 有り余 ^つ て |
| 2 | ① 愕然 ^が とした | ② 漠然 ^と した | ③ 积然 ^と した | ④ 確固 ^と した | ⑤ 超然 ^と した |
| 3 | ① 朴念仁 ^的 な | ② 一枚岩 ^的 な | ③ 五里霧中 ^的 な | ④ 泥仕合 ^的 な | ⑤ 登竜門 ^的 な |
| 4 | ① 自家薬籠中 ^の | ② 一筋縄 ^で いかない | ③ 換骨奪胎 ^の | ④ 一事が万事 ^の | ⑤ 未曾有 ^の |
| 5 | ① 擁 ^す る | ② 凌 ^{しの} ぐ | ③ 貢 ^ぐ | ④ 制 ^す る | ⑤ 仰 ^ぐ |

問2

《 》 線 a～e で用いられた漢字として最も適当なものを、次の各群の①～⑥のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、a b c d e 。

- | | | | | | | | |
|---|-------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| a | ハン ^プ | ① 帆 | ② 範 | ③ 頒 | ④ 不 | ⑤ 府 | ⑥ 付 |
| b | リヨウゼ ^ン | ① 瞭 | ② 了 | ③ 量 | ④ 全 | ⑤ 善 | ⑥ 前 |
| c | タカ | ① 他 | ② 太 | ③ 汰 | ④ 過 | ⑤ 可 | ⑥ 寡 |
| d | シヨウヘキ | ① 章 | ② 償 | ③ 省 | ④ 壁 | ⑤ 癖 | ⑥ 壁 |
| e | ホウセツ | ① 方 | ② 法 | ③ 放 | ④ 節 | ⑤ 撰 | ⑥ 折 |

問3 ―線Aに「視聴者は予期している」とあるが、当時の視聴者が予期したと考えられるものはどれか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、11。

- ① 時間帯にこだわらず、いつでもテレビ番組を視聴できるサービスを利用する人が増えていること。
- ② 夏休みなどになると、子どもの視聴者が増えるためにアニメを再放送することが多いこと。
- ③ 少子化によって子どもの視聴者が減ったため、アニメの放送時間帯として深夜が増えてきたこと。
- ④ 魔法少女アニメの放送の後継番組として報道番組が始まることは少ないということ。
- ⑤ スーパー戦隊ものや変身ヒーローものを好んで視聴する主婦が近年は増加していること。

問4 「12」甲にあてはまる文として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、12。

- ① 『ガンダム』に再アクセスする機会がなかなか得られなかったのである
- ② 『ガンダム』のファンが他地域に比べて著しく少ないのである
- ③ 『ガンダム』の価値を正当に評価できてはいなかったのである
- ④ 『ガンダム』のブームに乗り遅れることになったのである
- ⑤ 『ガンダム』をはじめとしたアニメーションの視聴時間が短くなったのである

問5 — 線Bで、筆者は「独特な意味づけを行っていた」とするが、その例として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、13。

- ① 全国各地でのアニメ番組の放映リストは、アニメ放映の周縁に置かれた人々への偏見を助長した。
- ② 『ガンダム』の放送後、アニメ雑誌の創刊がブームとなり、アニメに関する情報が全国で共有されることになった。
- ③ 熱狂的投稿をするアニメ放映の周縁に置かれた人々は、放送局を批判することも少なくなかった。
- ④ アニメ雑誌の投稿欄には、全国のファンと一緒に同じ経験を共有できたことを喜ぶファンの声まなが載ることも多かった。
- ⑤ アニメ放映の中心に置かれた人々は、遅れて放映の始まる地域を羨望の眼差まなしで見ることになった。

問6 《 》6～12に入る言葉として最も適当なものを、次の①～⑩のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。な

お、同じ番号を二回以上用いてはならない。もし用いた場合には、同じ番号の解答をすべて誤答とする。

解答番号は、6 14 7 15 8 16 9 17 10 18 11 19 12 20。

- ① 風評
- ② 媒介
- ③ 言及
- ④ 同期
- ⑤ 顕著
- ⑥ 援用
- ⑦ 輪郭
- ⑧ 流通
- ⑨ 傾倒
- ⑩ 払拭

問7

【Ⅰ～Ⅲには当時の雑誌に掲載された文章が入るが、最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つずつ選
びなさい。なお、同じ番号を二回以上用いてはならない。もし用いた場合には、同じ番号の解答をすべて誤答とする。

解答番号は、Ⅰ

21

Ⅱ

22

Ⅲ

23

。

① 今私の手紙を読んでくれているアニメファンのみな様。あとからいいんですが、放映リストのTV山口、山口放送のところを見てくれませんか？ ひどいんです！！！！！！ 七時台のアニメが何と二局合わせて四本しかない！ 花の日曜日にはアニメのAの字も見えないのです。

② あ「ガンダム」が終わる。悲しいよー。でもうれしいよー。なんといつても、わたしははじめから見えていないから再放送を見たいのです。

③ 私のアニメ好きはヤマトで始まりましたが、ガンダムを見たら、もうホントに時代の進化をまざまざと感じます。ありがとうございます。ありがとうございます！

④ 一月二十六日、土曜日。ガンダムファンはどんな顔でTVに見入っていたのだろう。最終回を観終わった感想、ガンダムへの思い……同じファンのコトバに耳を傾けてみないか。

⑤ 初めてガンダムを見た時、わけがわからないながらも「何かとんでもないものを見た」という気がしてならなかった。その時の気持ちを、今なら、何とか説明が付けられるような気がしている。

問8 「」乙にあてはまる文として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

解答番号は、。

- ① アニメ雑誌でその内容を知り、遅れて視聴を開始する人々が多くいたのである
- ② 番組の人気が高まっていくと、急に評論家ぶって語り始める人々も少なくなかったのである
- ③ アニメ雑誌の編集者たちもブームを意識し、放送局への要望を掲載するようになったのである
- ④ 視聴率が高まるとともに、放送の周縁に置かれた人々は自分たちの幸運を確信したのである
- ⑤ ブームを実感した人々が、自分こそが古参ファンであると自慢する例も少なくなかったのである

問9

には、ア～エを正しい順に並び替えたものが入る。正しい順に並んでいるものを、次の①～⑧のうちから一つ選びなさい。解答番号は、。

ア そうしたなかでアニメファンは、自身の欲望を満たすために積極的に活動を組織していった。

イ 放送の中心／周縁関係は本放映から再放送に至る過程で幾度も入れ替わり、満足の行く視聴機会を得られるかどうかはどこに居住していたとしても不明瞭なままだった。

ウ こうして『ガンダム』は、ブームといえるほどに人気を博し多くの人々を熱狂させたために、かえってさまざまな仕方アニメファンを分節化していった。

エ 具体的に言えば、テレビ局に対して『ガンダム』の(再)放送を呼びかけていったのである。

- | | | | | | | | |
|---|------|---|------|---|------|---|------|
| ① | アウエイ | ② | アイエウ | ③ | イウアエ | ④ | イアウエ |
| ⑤ | ウイアエ | ⑥ | ウアエイ | ⑦ | エイウア | ⑧ | エアウイ |

問10 《 》 13 ～ 19に入る言葉として最も適当なものを、次の① ～ ⑫のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。な

お、同じ番号を二回以上用いてはならない。もし用いた場合には、同じ番号の解答をすべて誤答とする。

解答番号は、13 14 15 16 17 18 19 。

- ① 同時性
- ② 再接合
- ③ 空間的制約
- ④ 再放送
- ⑤ 時間的差異
- ⑥ 論理的矛盾
- ⑦ 絶対多数
- ⑧ 分節化
- ⑨ 契機
- ⑩ 境界線
- ⑪ 分水嶺
- ⑫ 論理性

問11 — Cに「こうした依頼」とあるが、それはどのようなものか。最も適当なものを、次の① ～ ⑤のうちから一つ選び

なさい。解答番号は、。

- ① いちはやく再放送をしてもらいたいというアニメ雑誌編集者に対するファンたちの依頼。
- ② アニメ製作者たちから放送局などに対する制作環境の改善についての依頼。
- ③ アニメファンによる放送局に対する番組編成を組み替えてほしいという依頼。
- ④ 放映時間帯を遅らせて番組を見やすくしてもらいたいというアニメファンたちの放送局への依頼。
- ⑤ プロデューサーや監督などによるアニメファンに積極的な宣伝をもらいたいという依頼。

問12

本文の内容と一致するものを、次の①～⑧のうちから二つ選びなさい。解答番号は、

34

35

。

- ① テレビアニメやドラマなどのコンテンツを評判になってから視聴しても、現在ではブームに参入できるようになった。
- ② 『ガンダム』ブームはアニメ雑誌の創刊ラッシュと重なったため、ファン集団の統合だけでなく分節化も招いた。
- ③ 名古屋テレビと同日から『ガンダム』の放送を始めた放送局は多いが、放送時間も同じであった。
- ④ 『ガンダム』を視聴するうえで、最も理想的な条件だったのは九州エリアであった。
- ⑤ アニメ雑誌に掲載されていたアニメ番組の放映リストは、ファンが自身の居住地と他の地域を比較する契機になった。
- ⑥ 『ガンダム』の放送が終わると、放送の中心に位置づけられた人々は番組との別れを惜しんだ。
- ⑦ 『ガンダム』の視聴者同士の対立は、アニメ雑誌が生み出したものであったと言っても過言ではない。
- ⑧ 『ガンダム』の放送以来、アニメ製作者の側でも、アニメ雑誌を利用して放送局に要望することが一般的となった。

II 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。解答番号は

36

55

《配点35》

このごろ聞けば、逢坂あふさかのあなたに、関寺せきでらといふ所に、牛仏うしほとけ現れたまひて、よろづの人詣り見たてまつる。年ごろこの寺に、大きな御堂みだう建てて、弥勒菩薩みろくぼさつを造り据ゑたてまつりける。樽くれば、えもいはぬ大木どもを、ただこの牛一つして運びあぐることをしけり。あはれなる牛とのみ、御寺みでらの聖思ひじりひわたりけるほどに、寺のあたりに住む人借りて、明日使はむとて置きたりける夜の夢あに、

「われは迦葉かしょうぶつ仏なり。この寺の仏を造り、堂を建てさせむとて、年ごろするにこそあれ。ただ人はいかでか使ふべき」

と見たりければ、起きて、かうかう夢を見つると言ひて、拜をがみ騒さわぐなりけり。牛もさやにて黒くて、ささやかにをかしげにぞありける。繫つながねど行き去ることもなく、例れいの牛の心ざまにも似にざりけり。入道にゅうだう殿どのをはじめたてまつりて、世の中におはしける人、詣らぬなく詣りこみ、よろづの物をぞ奉りける。この牛仏、何となく心地悩ましげにおはしければ、とくうせたまふべきとて、かく人詣りこみて、この聖は御影像みえいざうをかかむとて急ぎけり。

かかるほどに、西の京いと尊くおこなふ聖の夢に見えけり。「迦葉か仏ぶつ当たう入にふ涅槃ねはんの段なり。智者ち当たう得とく結けつ縁えんせよ」とぞ見えたりければ、いとど人々詣りこむほどに、歌よむ人もあり。和泉式部、

聞きしより牛に心をかけながらまだこそ越えね逢坂の関人々あまた聞こゆれど、同じことなれば書かず。

日ごろ、この御かた書かせて、六月二日ぞ御眼まなこ入れむとしけるほどに、その日になりて、この御堂をこの牛見巡りありきて、もとの所に帰り来てやがて死にけり。これあはれにめでたきことなりかし。御かたに眼入れけるをりぞ果てたまひにける。聖いみじく泣きて、やがてそこに埋うづみて、念仏して、七日七日に経きやう仏ぶつ供養くやうしけり。後にこの書きし御かたを、内うちにも宮にも拝ませたまひける。今はこの寺の弥勒菩薩みろくぼさつ供養せられたまふ。この聖もいそぎけり。草を誰も誰もとりにて詣りけるなかに、詣らぬ

人などぞありければ、それは罪深きにやなどぞ定めける。

(『栄花物語』より)

(注1) 樽……山出しの板材や丸太。

(注2) 迦葉仏……釈迦になる前の過去の七仏の一つで、第六の仏。

(注3) 入道殿……藤原道長のこと、出家後法成寺入道と称された。

(注4) 御影像……ここでは牛仏の肖像画のこと。

(注5) 迦葉仏当入涅槃の段なり。智者当得結縁せよ……迦葉仏がまさに入滅(亡くなる)される時を迎えた。仏道に深く信奉する者は、仏と縁を結ぶべきである。

(注6) 内にも宮にも……帝も中宮も。

問1 — 線ア～オの言葉の意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

い。解答番号は、ア

36

イ

37

ウ

38

エ

39

オ

40

ア「あはれなる」

イ「をかしげに」

① 優しい

① 滑稽な様子の

② さびしい

② かわいらしい様子の

③ かわいい

③ 頼もしい様子の

④ 気の毒な

④ 堂々とした様子の

⑤ 感心な

⑤ ござつぱりした様子の

ウ 「いどど」

- ① やはり
- ② とても
- ③ ますます
- ④ 本当に
- ⑤ 実に

オ 「いそぎけり」

- ① 亡くなった
- ② 供養した
- ③ 悲しんだ
- ④ 準備した
- ⑤ 参拝した

エ 「やがて」

- ① そのまま
- ② かるうじて
- ③ そつと
- ④ 確かに
- ⑤ つまり

問2 ……線 A ～ D の解釈として最も適当なものを、次の各群の ① ～ ⑤ のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は、A

41

 B

42

 C

43

 D

44

。

A 「えもいはぬ大木どもを、ただこの牛一つして運びあぐることをしけり」

- ① 何とも言いようがない大木などを、ただこの牛一頭で運びあげたのであった
- ② 言いようもなく立派な大木などを、ただこの牛一頭では運びあぐねたのだった
- ③ 何とも良い香りのする大木なので、ただこの牛一頭はやつと運んだのであった
- ④ 誰も文句の言えない大木などを、ただこの牛一頭は高々と持ち上げたのであった
- ⑤ 言いようもない粗末な木なのに、ただこの牛一頭では運ぶことができなかった

B 「ただ人はいかでか使ふべき」

- ① たった一人の人がどのように使うつもりなのか
- ② ただちに人が使うのが何とも不思議ではないか
- ③ 身分の低い人がなぜ使うのか
- ④ 臣下が何とかして使おうとするのか
- ⑤ 普通の人はどうして使ってよいものか

C 「例の牛の心ざまにも似ざりけり」

- ① いつもの牛の様子が今回は異なっていた
- ② 以前の牛と成長が同じではなかった
- ③ 普通の牛の性格とは異なっていた
- ④ 他の牛と体形が同じではなかった
- ⑤ 今までの牛の行動と似ていなかった

D 「これあはれにめでたきことなりかし」

- ① これは気の毒でかわいそうなことだ
- ② これは感慨深く讚美さんびすることであるよ
- ③ これは悲しいがすばらしいことかもしれない
- ④ これは感動的だが称たたえるべきことではない
- ⑤ これは辛いことだが喜ばしいことになるだろう

問3 〓線 a ～ e の助動詞の意味について、最も適当なものを、次の①～⑩のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

なお、同じ番号を二回以上用いてはならない。もし用いた場合には、同じ番号の解答をすべて誤答とする。

解答番号は、 a 45 b 46 c 47 d 48 e 49。

- ① 伝聞
- ② 完了
- ③ 過去推量
- ④ 過去
- ⑤ 断定
- ⑥ 受身
- ⑦ 打消
- ⑧ 使役
- ⑨ 意志
- ⑩ 現在推量

問4 この文章の内容と合致しないものを、次の①～⑧のうちから二つ選びなさい。解答番号は、

50

51

- ① 関寺のお堂を造るために使用した牛を、寺近くの人は借りて連れ帰った。
- ② 関寺のお堂を造った牛は、お堂を回り終えて死んでしまった。
- ③ 関寺では、御堂を建てて牛仏の像を造り安置しようとしていた。
- ④ 関寺では、牛一頭を使ってお堂を建てることにしていた。
- ⑤ 関寺近くの人の見た夢に迦葉仏が現れ、御堂を造らせるために働いていると告げた。
- ⑥ 関寺に牛仏が現れたというので、多くの人々がその牛を拝もうと押し寄せた。
- ⑦ 西の京に住む聖の夢に、牛仏の肖像を描くようお告げがあった。
- ⑧ 牛仏の評判は都中にひろまり、牛仏の肖像画を帝も中宮も拝まれた。

問5 文中の、和泉式部の詠んだ和歌の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

解答番号は、

52

- ① 牛仏の噂を聞いてからお参りすべきと心にかけてつ、逢坂の関を越えようと決心したことよ。
- ② 牛仏の噂を聞いて気にはなるもの、まだまだ逢坂の関を前にして私はためらうことであるよ。
- ③ 牛仏の噂を聞いた時よりも更に噂は広まったので、気にはなるけれども逢坂の関越えることが出来ないことよ。
- ④ 牛仏の噂を聞くやいなやお参りしようと思いつながら、いまだ逢坂の関を越えず果たしていないことよ。
- ⑤ 牛仏の噂を聞いてから心は穏やかではなかったが、やっと逢坂の関を越えてしまつて安心できたことよ。

問6

次の文中

□

甲・乙・丙に当てはまる語として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、甲

53

乙 54

丙 55

。

本文中の和泉式部は平安中期の女流歌人で、一条天皇の后きさき彰子に仕えた女房である。同じ彰子に仕えた女房歌人には

甲

や『源氏物語』の作者紫式部の娘

乙

がいる。鎌倉時代の歌人

丙

は、和泉式部や

甲

・

乙

の和歌等をえら撰んで作成した「百人一首」の撰者とされている。

甲

乙

丙

① 小野小町

① 大式三位

① 西行

② 右大将道綱母

② 小式部内侍

② 藤原公任

③ 赤染衛門

③ 菅原孝標の女

③ 源実朝

④ 清少納言

④ 建礼門院右京大夫

④ 鴨長明

⑤ 阿仏尼

⑤ 伊勢

⑤ 藤原定家